

川崎氏は、

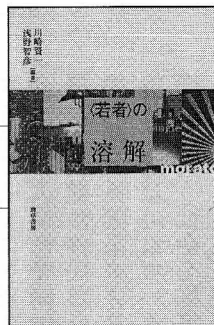
「宇宙船地球号」の乗組員としての人類は、互いにかかわりを持ちながら、生活せざるを得ない

状況になったとし、欧米近代の基本的価値観である「自由と独立」を守りつつ、新しい共有の文化を作り出すという課題を提示する。そして、

そのためには、多層性を確保しつつ、全体としては寛容な多様性を保有するという「重複型アイデンティティ」

が重要だという。これは、本書全体のトーンとしての多元的自己論（状況対応型自分らしさ）と、過去の一元的アイデンティティ論へのアンチテーゼとしての文脈とつながる主張である。

また、若者の幸福感が極端に高いという実態については次のように述べる。幸せを感じるものになるインフラが大きく変わって、自己の欲求をいろいろと



川崎賢一、浅野智彦 編著

3456円 勁草書房  
☎03-3814-6861

## 〈若者〉の溶解

満たしながら、操作的な対人関係を築き、概ね「ほどほどの満足感」に浸ってきた。ただし、背後には、極めて激烈な競争と過酷で残酷な競争がある。現代青年文化は、この厳しい現実に対応する最初の本格的な対応様式を築こうとしている。

評者は考える。われわれはアイデンティティを自己同一性ととらえ、その確立を若者の自立にとつての不变の価値として教育活動を進めてきた。だが、若者が「重複型アイデンティティ」によって現実適応しようとしているとするならば、そのような自己同一性を押し付けられることは、考えてみれば残酷な話だ。価値の伝承と創造を担う教育だからこそ、実態誤認の安易な「若者論」に振り回されることなく、同書のような知見を取り入れたり、教育学を対抗させたりしながら、若者の自立支援の方策を見出さなければならぬ。

(聖徳大学教授・西村美東士)